

49 地域防災訓練への障害者の参加：4年目の進展

研究所障害福祉研究部 北村弥生

自立支援局 小田島明、石森伸吾

【はじめに】地域における災害時の準備のために、平成24年から所沢市において、市役所、社会福祉協議会、まちづくりセンター、自主防災組織、町内会、当事者、支援者らと行っている地域防災訓練への障害者の参加について、4年目の進展を紹介する。

【方法】所沢市地域防災訓練は、毎年、8月最終土曜日午前に、市内の約20の小学校で一斉に行われる。平成28年度には、国リハに隣接するA小学校で、脳性マヒ者Bさん(30歳代、車椅子使用)と全盲女性Cさん(60歳代)に参加を依頼した。両名共3回目の参加であった。また、まちづくり協議会しんとこイーストネット安心安全部長らと事前の防災備品の確認、その仲介でA中学校有志5名に2時間の事前研修をした上で介助ボランティアを依頼した。Bさんに対しては男子中学生3名が町内会の集合場所から車椅子移動支援を、Cさんに対しては女子中学生2名が自宅からの手引きと会場での防災備品の示説をした。Bさんには、毛布での簡易担架示説で、車椅子から毛布までの移乗と搬送のモデルを依頼した。国リハ職員2名は事前研修講師と当日の介助ボランティア指導に地域住民ボランティアとして参加した。参与観察の他、参加者から振り返りを得た。

【結果】

1. 防災備品の確認では、地域組織の協力により以下の4点が明らかになった。
 - ① 排泄物を自動封入するラップポントイレは事前に操作確認が必要なこと
 - ② 一人用テントは介助を要する人のトイレの囲いとしては大きさと扉の開閉に難があること
 - ③ ダンボールシェルターは着替え空間に適するがラップポントイレは入らないこと
 - ④ 仮設トイレの設置場所と担当者をあらかじめ決める必要があること
2. 2時間程度の事前研修により中学生による介助は円滑に行われた。しかし、会話の接点を探すのは難しく、介入または準備が必要であった。
3. 障害者2名は初めて閉会式で感想を述べた。発声できないAさんも、文字入力装置の音声出力を使ったほか、毛布による簡易担架作成で運ばれるという形で参加を果たした。

【課題と今後の展開】

下記の3点は次年度の課題として取り組む計画である。

1. 国リハ職員による事前研修をボランティアでなく業務として発展させること。
2. 事前研修に地域住民の参加も得て、多人数で少しずつ協力し合う体制を構築すること。
3. 介助技能以外に介助者と障害者の交流の方法を確立すること。